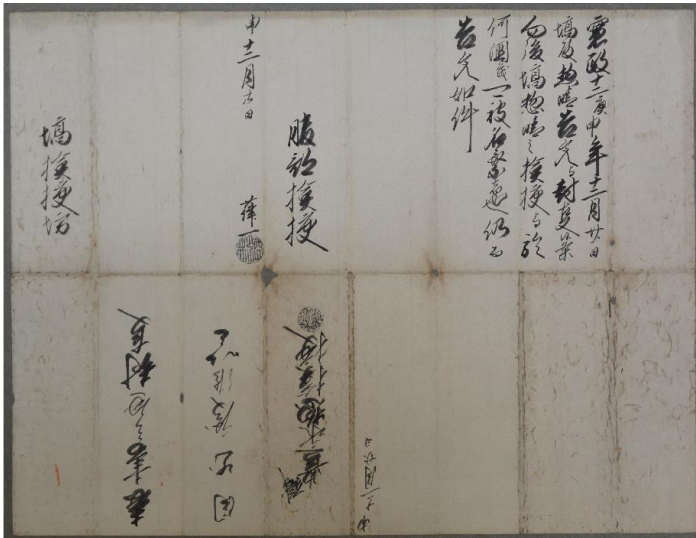


本庄市塙保己一記念館にある資料紹介

寛政十二年(一八〇〇)の告文(封事状)

記念館には当道座(盲人組織)に係る資料として告文を七点所蔵しています。この内、天明三年(一七八三)に、保己一が検校の位に昇進した時の告文は、すでに本誌第10号で紹介しています。今回紹介する告文は、寛政十二年に保己一が「惣晴(そうせい)の検校」に昇進した時のものです。当道座は階級の厳しい社会で、全部で七三段階の階級があったといわれます。当道座に入門すると「初心(無官)・打掛(うちかけ)・二段階」から始まり、次いで「座頭(ざとう)」となります。座頭の最初の位が「才職衆分(さいしきしゅうぶん)」といい、座頭だけでも一五段階あり、次が勾当(こうとう)で三五段階もありました。さらに別当(十段階)から検校へと進みますが、最高位の総検校から十番目までを十老といい、七番目が惣晴の検校となります。この時、保己一は五五歳でした。文書の内容は、「寛政十二年十二月二十日に塙殿(保己一)に惣晴の告文を出す。今後は全国どこにおいても塙惣晴の検校と名乗って良い。」となります



年十二月二十日に塙殿(保己一)に惣晴の告文を出す。今後は全国どこにおいても塙惣晴の検校と名乗って良い。」となります

(上写真の文言)

寛政十二庚申年十二月廿日

塙殿惣晴告文与封事候条

向後塙惣晴之検校与於

何国茂可被名乗者也、仍而

告文如件

申十二月廿日 服部検校

葎一

塙検校坊

表書之通封事

目出度候、以上

職豊永惣検校

申十二月廿日

顕彰会への加入・継続をお願いいたします。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会は、平成19年7月26日に市民参加による顕彰会として発足いたしました。顕彰会では、塙先生の遺徳と事績を広く顕彰し、その精神の普及を図ります。毎年、命日の9月12日に塙先生の遺影に菊の花を捧げる顕彰祭を開催するほか、説明会など各種啓発事業を行っています。

みなさまのご加入・会員継続をお待ちしております。

年会費 個人会員 一口 千円、賛助会員(団体) 一口 一万円

入会と会費納入の受付場所 本庄市役所4階生涯学習課と本庄市児玉文化会館(セルディ)、アスパアこだま内の児玉公民館で受け付けています。

※ 郵便振替でもお申込みいただけます(ご希望の際には、下記へご連絡ください)。



発行 総検校塙保己一先生遺徳顕彰会

事務局 本庄市教育委員会 生涯学習課 本庄市児玉文化会館(セルディ)内

所在地 〒367-0216 埼玉県本庄市児玉町金屋728-2

電話 0495-72-8851 FAX 0495-72-8854

※点訳ボランティアグループ「ほきの六点会」の皆様により会報誌の点字翻訳版を作成していただきました。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会 会報誌

第24号 平成27年12月号



ことし9月12日開催の顕彰祭の様子 — 来年は、いよいよ塙先生没後195周年を迎えます。

ごあいさつ

“世のため^{のち} 後のため”—— その大志を胸に、盲目でありながら不屈の精神で大史料集である群書類従を編纂した塙保己一先生は郷土の誇るべき偉人です。その偉業は歴史に刻まれ、今後も人々の心に刻まれていくことと思います。この偉大な先人も江戸時代の後期に没して後、来年には195周年を迎えます。総検校塙保己一先生遺徳顕彰会では、この節目に、また、旧本庄市と旧児玉町合併10周年を記念して上越新幹線本庄早稲田駅前に塙先生の銅像建立を計画してまいりました。このため、銅像建立委員会や役員会などで会議・検討を重ねてまいりましたが、いよいよ来年3月には銅像が完成する予定です。みなさま、ぜひご期待ください。

また、会員のみなさまには、日頃の顕彰会へのご理解・ご協力をお礼申し上げますとともに、寒さが増すこれからもご健勝でいらっしやることを祈念いたしましてごあいさついたします。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会

会長 吉田信解

